

目次 index

STI Horizon 2017 春号発行に当たって.....	3
STI Horizon 誌編集長 赤池 伸一 (科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター長)	
特別インタビュー	
日本機械学会会長／東京工業大学 環境・社会理工学院 岸本 喜久雄 院長・教授インタビュー 工学系高度人材育成の現状と課題.....	4
情報通信研究機構 土井 美和子 監事インタビュー 産学連携とオープンサイエンスのこれまでとこれから.....	9
ナイスステップな研究者から見た変化の新潮流	
早稲田大学 人間科学学術院 玉城 絵美 助教インタビュー.....	13
理化学研究所 仁科加速器研究センター 望月雪氷宇宙科学研究ユニット 望月 優子 研究ユニットリーダーインタビュー.....	17
ほらいずん	
新たな予測活動の展開に向けてⅢ 対談：未来洞察の思考法と予測活動の更なる発展に向けて.....	21
持続可能な「高齢社会 × 低炭素社会」の実現に向けた取組 (その2 地域における理想とする暮らしの姿の検討).....	27
科学技術予測センター 予測・スキャニングユニット	
世界各国の科学技術予測活動 フィンランドのフォーサイト活動 －市民参加を得た科学技術と社会のシナリオ作成－.....	33
科学技術予測センター 主任研究官 栗林 美紀	
独立系研究者からの視点－科学技術イノベーションへの期待－ 小松研究事務所代表／多摩大学情報社会学研究所客員准教授 小松 正氏インタビュー.....	37
Society 5.0に向けた「文系」と「理系」の知の総合と発信 －人文学の新潮流を踏まえて－.....	41
科学技術予測センター 客員研究官 坂下 鈴鹿	

レポート

オープンイノベーションの Horizon (後編)

－戦略的提携型オープンイノベーションに対する大学の取組－…………… 46

第 2 調査研究グループ 上席研究官 新村 和久

企業が主体となって行うオープンイノベーションに対する大学の取組について、オープンイノベーションの類型をコンソーシアム型、戦略的提携型（技術探索型と技術提供型）に分類した後、国内での大学が関わる最新動向について洞察を行った。

後編では、技術探索型では、企業ニーズに対して種々のアプローチがあり、国内技術シーズの活用余地が潜在的に高いこと、技術提供型においては、文系産学連携を例に、企業のシーズを活用した事業創出の可能性があること、などを明らかとした。

日本企業によるイノベーションの実像

－『第 4 回全国イノベーション調査統計報告』－…………… 52

第 1 研究グループ 研究員 池田 雄哉

科学技術・イノベーションに対する政策形成では、客観的なエビデンスに基づく合理的かつ透明性の高いプロセスが求められている。こうした背景のもと、各国では、国際標準に準拠した統計調査を実施して、企業のイノベーションやイノベーション活動の状況・動向を把握している。我が国では、科学技術・学術政策研究所（NISTEP）が「全国イノベーション調査」を実施しており、2015年に実施した最新の第4回調査の結果を公表した。本稿では『第4回全国イノベーション調査統計報告』として公表された調査結果をもとに、2012年度から2014年度にかけて日本企業が実現したイノベーションや実施したイノベーション活動について明らかにする。

OECD ブルースカイⅢ科学・イノベーション指標フォーラム報告…………… 58

第 2 研究グループ 総括主任研究官 富澤 宏之

経済協力開発機構（OECD）の主催によるブルースカイⅢ科学・イノベーション指標フォーラム（OECD Blue Sky Ⅲ Forum on Science and Innovation Indicators）は、科学技術・イノベーション統計・指標について、今後の10年間程度を展望するとともに、政策に関連した今後の展開の道筋を探ることなどを目的とする国際会議であり、ベルギーのヘント市において、2016年9月19日～21日に10年ぶりに開催された。本フォーラムは、統計・指標をテーマにしているが、広く科学技術・イノベーションに関する研究や政策の世界的な動向を把握し、また、今後を展望する上で極めて重要な会議であるため、本稿ではその概要を報告する。